

第30回Kozoom28 テーマ「1年を振り返って」

清水健二

今年も我々の身の回りの日常生活は、変化の多い毎日だった。日本の政治や経済が他国の戦争や、世界中に拡大したコロナ禍、そして環境問題等身近に感じるようになってきた。近年の情報化によって一層大きな影響を受けることになり、かえって情報過多で消化できないばかりか、いちいち気にしては生き辛くなるばかりで、程々にして置くことが賢明な生き方のように思っている。天下国家を論じ、「1年を振り返る」力量もないので、「私の1年を振り返る」ことにしたい。

毎年11月から12月にかけて、新年の年賀状を遠慮したいと言う訃報の便りがくる。昨年の暮れもそうだったが、特に今年は現役時代の後輩達の数が多かった。私は毎年年賀状を出していることから、その方の家族から喪中はがきを頂戴し、コロナ禍で親族だけで葬儀を終えたことを知られることが増えた。また年末の喪中の便りでは一層寂しい思いをさせられている。先輩達はほとんどが他界してしまい、後輩達の訃報を聞かされる程、自分が歳を重ねてきていることを認識させられる年の瀬である。

歳を取ると1年の過ぎるのが速いと言われ、年齢の数だけ1年分の記憶が薄れるのだそうである。20歳の頃はその年にあった事の20%は忘れるが、90歳になると90%も忘れてしまい、記憶に残るものが少ないため時があつと言う間に過ぎたように思うのだという。そんなものかな？と思う反面、歳と共に何事も億劫になり自ら行動を起こさないから記憶にも残らないからだとは以前から思っていた。先日テレビを見ていると、その原因は歳を取るにつれて「ときめき」が無くなって記憶に残らないからだと言っていた。確かに日常生活の中で、感動や感謝の気持ち薄れていく結果だと思う。歳をとっても感情豊かに過ごすよう心掛けることが大切だと改めて感じた。

今年は1月頃から新型コロナはデルタ株から変異株オミクロンに急拡大し、8月頃から第7波と目まぐるしく、感染者数も高まってきた。経済も停滞し、この先どうなっていくのだろうかと思案していたら、ウイズ コロナという言い方で、厳しく制限されていた感染防止の条件が緩和され、徐々に日常生活が戻りはじめて3年ぶりに文化活動やイベント開催が可能になってきた。美術展などの開催も始まり、私の所属する協会の行事も動き出した。当地の八尾美術会員展や秋には八尾美術展、また創造美術有志展や本番の創造展、11月には奈良県展と今月も奈良勤労美術展、と軒並みに展覧会が再開し出品することになった。他にも飛び込みで堺市の古民家での展示会へも対応した。幸い、彫刻は日頃から制作し続けていたので、辞退する事なく出展できたのは今年の成果になり良かったと思っている。

彫刻の制作は拙宅の小さなアトリエ内で、文字通り「巣ごもり」で日常的に独り気ままに進めている。一方写真愛好会では、仲間達と月1回は撮影会に出向き 自然の空気を満喫している。また勉強会等も定期的に行ない仲間達との交流を楽しんでいる。過去には年1回、海外へ撮影旅行していたが、コロナ禍で国内でも遠出する事もままならず、もっぱら近場の奈良や京都あたりをウロウロしているが、四季の移ろいはコロナ禍に関係なく、美しい自然にめぐり会えるのが素晴らしい。

今年は夏頃から各所で伝統行事も再開され、祭も制限されながらも復活し、新しいイベントには仲間達と車に分乗して出かける事が増えた。3年ぶりに生活が戻ってきたものの その間に自分の体力の低下を感じるようになってしまった。しかし気持ちだけはまだ大丈夫と挫けないで頑張っている。屋内で制作する彫刻も、屋外で作品づくりする写真も、発表する場があって人様に見てもらい、評価され励まされてこそ やり甲斐と楽しさが倍加するものである。コンテスト等で入賞すれば尚更である。この歳になっても展示会で意見を貰い褒めてもらおうと素直にハッピーな気持ちになる。大げさに言えば役者が観客から、スタンディング オベーションを受け、その喜びが次の舞台への励みになるようなものである。

今年、途中で挫けないでやり通したことは、月1回のKozoom28で懇談のテーマについて投稿するエッセーを書くことであった。編集のお世話を頂いている野口幹夫兄の手を煩わせながらも、12ヶ月に亘り12編をやり遂げた。その他にも4月に同期の「熊田亮順さんの追悼文」や6月には「堺市歴史館の彫刻展について」も書かせてもらった。熊田亮順さんの追悼文に彼との思い出にちなんだ、「風神・雷神」の小品を制作し、彼の住まいだった大阪市内の西九条に近い江之子島文化芸術創造センターで、上述した創造美術有志展へ出品でき、少しは供養になったかなと思っている。

月々のKozoom28のテーマ向けの投稿文は、初めの頃は何となく書いていたが、与えられたテーマから、考えもしなかった事を思い起こしながら、自問自答しながらも自分の考えを整理するのは頭の体操になると思った。少なくとも1年は続けてみようと思われ、野口兄にサポートしてもらい、続けられたのは今年の一つの成果となった。野口兄のご指導に感謝している。

私にとって今年是一字で示すならば「実」と表現したいと思っている。昨年、一昨年はコロナ禍による日常生活が大きく変化し、行動制限から文化活動が低迷し、同時に進行する自分の体力の低下にも悩まされ続けたが、今年は 少しは活動範囲も広がり、やりたい事が「実現」し、「実り」あるものになった事に、「充実」感を持てた一年であったと思っている。

来年も気負う事なく、老化との戦いになるが、ボケないように頑張りたいと願っている。

今年展示した彫刻の作品の一部と、今年撮って発表した写真の中から選んでみた。彫刻にしろ写真にしろ、自分の受けた「ときめき」をどう観る人に伝える事ができるか、悩みながらではあるがプロセスを楽しみ作品づくりをしていると言えようか。 ご笑覧ください。

彫刻作品 および

写真作品

次ページ

彫刻作品

①「風神・雷神」の小品 創造美術有志展(江之子島文化センター)



「風神・雷神」(江之子島文化センター 2022・7)

②「寒山拾得」 創造美術展(豊中市文化センター)



「寒山拾得」(豊中市文化センター 2022・9)

③「老婆の秋」 奈良県展(奈良県文化会館)



「老婆の秋」(奈良文化会館 2022・11)

写真作品

次ページ

写真作品

①「護摩祈禱-奈良・元興寺」（大阪府シニア展 江之子島文化センター）



「護摩祈禱」（奈良元興寺 2022・6）

②「突風-八尾市内公園」（八尾市内ギャラリー）



「突風」 八尾・久宝寺緑地(2022・5)

③「轟音-伊丹空港」(八尾市内ギャラリー)

④「ゑえじゃないか祭-関空りんくうタウン」(八尾市内ギャラリー)



「轟音」(伊丹空港 2022・9)



「ゑえじゃないか祭」(関空りんくうタウン 2022・10)